

みやぎの

3月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.217 2025.3

紹介内容 (2/1~2/28)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技术の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 亘理農改：札幌市内でいちごの消費宣伝会を開催しました
 - 大河原農改：第2回大河原地域農業普及活動検討会を開催しました
 - 気仙沼農改：第69回「竹駒産業文化賞」を受賞しました
 - 大崎農改：第2回大崎地域農業改良普及活動検討会を開催しました
 - 大崎農改：色麻町集落営農法人対象の研修会が開催されました
 - 気仙沼農改：気仙沼地区農業士会・漁業士会北部支部交流会が開催されました
 - 栗原農改：令和6年度みやぎ農業未来塾inくりはら「スマート農業の推進」研修会を開催
 - 美里農改：第2回美里地域農業普及活動検討会の開催
 - 美里農改：令和6年度美里地区農業士会第2回研修会の開催
 - 仙台農改：令和6年度農業経営セミナーを開催しました
 - 亘理農改：令和6年度第2回亘理地域農業普及活動検討会を開催しました

- ② 新たな担い手の確保・育成・・ 4
 - 大河原農改：みやぎ農業未来塾「大河原地域次世代農業研修会」を開催しました！
 - 大河原農改：仙南4Hクラブで先進地視察研修を開催しました
 - 大崎農改：未来塾で地域の先進的な取組を視察しました
 - 登米農改：登米市農業士会視察研修会が開催されました
 - 登米農改：登米市農業士会地域農業振興懇談会が開催されました
 - 栗原農改：ふぁーみんぐ女子会を開催しました
 - 美里農改：「美里地区女性農業者キャリアアップ研修会」を開催しました

- ③ 先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - 仙台農改：令和6年度乾田直播栽培講習会を開催しました！
 - 農業振興課：大反響！？営農管理システムの導入に向けた勉強会を各地で開催しました

- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・ 7
 - 大河原農改：直売所の販売促進に向けてレイアウト変更を支援しました
 - 石巻農改：河北せり実績検討会を開催
 - 石巻農改：宮城県ぽてと生産者大会開催！管内法人が「県知事賞」を受賞！
 - 登米農改：JAみやぎ登米りんご生産部会せん定講習会・防除暦説明会が開催されました
 - 美里農改：JA新みやぎ仙台小ねぎ部会土壌診断研修会が開催されました
 - 仙台農改：ねぎ若手生産者の情報交換会を開催しました
 - 大河原農改：道の駅「村田」で研修会が開催されました
 - 栗原農改：栗原地域園芸振興セミナーを開催しました！
 - 美里農改：施肥設計を見直そう！南郷施設きゅうり部会栽培講習会が開催されました

- 仙 台農改：ＪＡ新みやぎあさひな地区のえだまめ作付け検討会が開催されました
 - 大河原農改：「食品衛生法に関する研修会」を開催しました！
 - 大河原農改：「りんごせん定講習会」が開催されました！
 - 登 米農改：ＪＡみやぎ登米にら部会の総合実績検討会が開催されました
 - 石 巻農改：令和６年度宮城県農林産物品評会（野菜（いちご）部門）で見事入賞！
- ⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 大 崎農改：大豆栽培における難防除雑草防除研修会（外来雑草対策）が開催されました
 - 登 米農改：夏黄金栽培講習会が開催されました
 - 石 巻農改：いしのまき和牛改良推進組合による計画交配産子調査研究会が開催されました

2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- ① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 大 崎農改：「やくらい土産センター・山の幸センター活性化研修会」（売り場環境改善編）を開催
 - 気仙沼農改：第２回気仙沼農業改良普及センター普及活動検討会を開催しました
 - 栗 原農改：栗原市金成有壁地区で酒蔵見学・新酒きき酒会が開催されました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○札幌市内でいちごの消費宣伝会を開催しました 令和7年2月4日 亘理農業改良普及センター



令和7年1月23日、JAみやぎ亘理いちご部会員6名を含め、全農みやぎ、県関係者らが札幌市内大手スーパーで、消費宣伝を行いました。店頭に並んだいちごは亘理町、山元町で生産しているいちご「もういっこ」「にこにこベリー」「とちおとめ」の3品種で、天候が良かったこともあり、大粒で真っ赤に色づいたいちごを販売することができました。

宣伝会ではいちごの試食を準備していたため、訪れた親子連れや、海外からの観光客の方も、好みのいちごを選ぶことができ、満足した様子でした。また、試食をすすめた女性部会員らは、買い求めたお客様と、いちごを育てるときの苦労や、おいしいいちごの見分け方などの話に花が咲いていました。いちごは販促特価だったこともあり、用意した700パックを当日中に完売することができました。

普及センターでは、今後もいちごの安定生産のための技術指導や販売促進を関係者と連携して進めていきます。普及センターでは、今後もいちご生産者の安定生産支援を行っていきます。

○第2回大河原地域農業普及活動検討会を開催しました

令和7年2月6日
大河原農業改良普及センター



普及センターでは、普及活動を計画的かつ効果的に推進するため、農業者や消費者、関係団体等の外部委員（普及活動検討委員）から意見をいただき普及活動検討会を年2回開催しており、2月4日に第2回

大河原地域農業普及活動検討会を開催しました。

今回の検討会では、本年度完了を迎える2課題を含むプロジェクト3課題について活動内容と成果を報告しました。委員からは課題の成果に対し高い評価をいただくとともに、「課題終了後も地元で取り組みが継続されることが課題の成果であるので、引き続き支援をお願いしたい。」といった意見が出されました。

さらに令和7年度の活動計画及び新規課題について説明を行い、意見やアドバイスを頂戴しました。

普及センターでは、今回いただいた意見を踏まえ、さらに効果的な普及活動の推進に努めていきます。

○第69回「竹駒産業文化賞」を受賞しました 令和7年2月7日

気仙沼農業改良普及センター



竹駒神社（岩沼市）が郷土の農林水産業等産業振興に功績のあった個人や団体に授与する第69回「竹駒産業文化賞」に、阿部博之氏（南三陸町）が農業（個人）の部で選ばれ、令和6年11月23日、授賞式が挙行されました。

阿部氏は、南三陸町入谷地区で水稻や果樹の栽培を行いながら、新規就農者等の相談役として技術指導等のニーズに応じた支援を行い、担い手育成に尽力してきました。また、子供達への農業体験や食育活動のほか、会長を務める南三陸大粒ぶどう協議会でのぶどうの生産振興など、里山の資源を活用した地域活性化に長年に渡り寄与されました。

御受賞、大変おめでとございました。

○第2回大崎地域農業改良普及活動検討会を開催しました

令和7年2月7日
大崎農業改良普及センター



令和7年1月31日に第2回大崎地域農業改良普及

活動検討会を開催しました。普及活動検討会は、当所の活動が農業者や地域住民に理解され、効率的で効果的な普及指導活動を推進するために外部委員に御意見をお伺いするものです。

始めに今年度で完了する2つのプロジェクト課題「農地整備を契機とした地域営農体制の構築」と「子実用トウモロコシを含む水田農業の輪作技術体系の確立」について検討していただきました。委員からは、「完了課題については、得られた成果をいかに他の地域や農業者に波及させていけるかが大事であり、今後に期待している。」との評価をいただきました。続いて来年度取り組む4つのプロジェクト課題を検討していただき、「若い人が農業を生業としてやっていけるように、経営計画策定支援や水稲乾田直播の技術定着支援など、地域の担い手育成に引き続き取り組んでもらいたい」といった御意見をいただきました。

今回の検討会でいただいた御意見を今後の普及活動に活かしていきます。

○色麻町集落営農法人対象の研修会が開催されました

令和7年2月10日

大崎農業改良普及センター



令和7年2月4日に集落営農法人対象研修会が色麻町役場で開催され、町内の6法人から13人が出席しました。この研修会は、町内の集落営農法人が情報交換を通じて法人間の連携を図り、レベルアップできる環境づくりを進めるため、町が初めて開催したものです。

初めに、農事組合法人下高城ふああむの早坂代表から経営概要や組織運営、法人設立の経緯などの発表がありました。その後、質疑応答に引き続き、意見交換が行われました。

出席した法人からは、会計や組織運営の方法、後継者確保、機械施設の更新などについて忌憚なく意見交換がなされました。研修会終了後は、懇親会でさらに交流を深めたようです。

町では、今後も年2～3回程度、研修会を開催し、情報交換を通じた、法人育成を進めることにしています。普及センターでは、引き続き、町と連携した法人の経営発展を支援していきます。

○気仙沼地区農業士会・漁業士会北部支部交流会が開催されました

令和7年2月17日

気仙沼農業改良普及センター



気仙沼地区農業士会と漁業士会北部支部の交流会が、令和7年2月13日に南三陸町志津川公民館を会場にして初めて開催され、農業士会3人、漁業士会11人、関係機関6人、計21人が出席しました。

この交流会は、農業、漁業の一次産業の現場において、担い手不足や環境変化への対応が喫緊の課題となっていることから、地域の一次産業の間での連携を深め、共通する課題についての解決策を探るため開催されたものです。

最初に自己紹介が行われ、この後、農業改良普及センターから「農業における担い手確保の現状等について」と題して話題提供をしました。引き続き、「担い手確保」、「環境変化への対応」、「補助金や支援制度」をテーマに、予定時間を大幅に超える活発な意見交換が行われ、お互いが抱える現状等について理解を深めた様子でした。

普及センターでは、今後も農業士会の活動を支援していきます。

○令和6年度みやぎ農業未来塾 in くりはら「スマート農業の推進」研修会を開催しました！

令和7年2月26日

栗原農業改良普及センター



令和7年2月19日（水）に、宮城県栗原合同庁舎で、みやぎ農業未来塾 in くりはら「スマート農業の推進」研修会を開催し、新規就農者、農業法人経営者など11名が参加しました。

研修会では、宮城県スマート農業コンシェルジュの庄子一郎氏より「宮城県におけるスマート農業の推進」について、スマート農業の背景や具体的な技術の内容、支援事業などについてわかりやすく説明していただきました。栗原管内でもRTKシステムを利用したスマート農業に取り組む農業者が増えつつあることから、参加者も自分に合った技術を導入するため、熱心に耳を傾けていました。

○第2回美里地域農業普及活動検討会の開催
令和7年2月27日
美里農業改良普及センター



令和7年2月6日(木)に第2回美里地域農業普及活動検討会を開催し、本年度の活動実績と次年度の活動計画について、普及活動検討委員から意見等をいただきました。

初めに、課題「土地利用型法人の経営戦略の策定と持続的経営の展開」で、田尻の集落営農法人がライスセンターを整備し、専門家のコンサルで事業計画を見直したこと、次年度は、高収益作物の拡大や人材確保、事業計画の実現を図ることなどを説明しました。

次に、課題「北浦梨産地活性化に向けたICT活用による栽培の見える化」で、若手生産者が栽培環境や害虫発消長を情報共有し役立てたこと、次年度は、情報交換ネットワークでの生育状況の投稿・共有や経営管理の見える化を進めることなどを説明しました。

最後に、課題「堆肥の活用と施肥方法の改善による麦類の品質・収量の向上」で、涌谷町での春先の麦生育中の堆肥散布や穂揃期葉面散布追肥により収量品質が向上したこと、次年度は堆肥の有効活用の普及や追肥一発資材の検討に取り組むことを説明しました。

委員からは、「構成員の高齢化や人材確保が課題であり、品目の見直し、省力化による規模拡大、販路など検討してほしい。」「情報交換ネットワークでの情報共有、見える化、技術の継承は良い。部会員への普及も進めてほしい。」「春先の麦への堆肥散布は町域を超えて普及してほしい。追肥一発資材での収量品質改善に期待する。」などの意見をいただきました。

普及センターでは、農業者や地域農業の課題解決を図るため、検討委員の意見や評価を参考にしながら、関係団体と連携して効率的な普及指導活動に取り組んでまいります。

○令和6年度美里地区農業士会第2回研修会の開催
令和7年2月27日
美里農業改良普及センター



令和7年2月14日(金)に、美里地区農業士会第2回研修会が美里農業改良普及センターで開催され、農業者や農業法人の関係者等が参加しました。

初めに、「野菜等の流通ビジネスの最新情報について」宮城県園芸推進課園芸流通ビジネス相談員の渡邊智弘氏から、夏季の高温・長期化による野菜等の適温適地が北上していることや、「物流の2024年問題」、時代ニーズの変化に対応・進化し続ける事の重要性についてお話がありました。

次に、「スマート農業を活用した営農管理システムについて」BSFジャパン株式会社の五味剛史氏から、ザルビオフィールドマネージャーについての説明を受けました。このシステムは世界24か国の衛星画像により、地力マップや農作物の生育状況を見える化し、AI解析で施肥や防除を予測できます。さらに、スマート農機と連携して可変施肥・散布を行い収量品質が向上すること、圃場データを共有して作業の効率化や若手農業者の早期技術習得が可能であることなどを説明していただきました。

野菜等の流通ビジネスでは、気象や物流問題、トレンドと時代変化を知り、スマート農業による営農管理システムでは、機能や可能性を学ぶことができ、有意義な研修となりました。

○令和6年度農業経営セミナーを開催しました
令和7年2月28日
仙台農業改良普及センター



仙台農業改良普及センターと仙台市農業振興課が共催し、令和7年2月20日に農業経営セミナーを開催したところ、農業法人や認定農業者、関係機関29名が参加しました。

本年度は「人材不足に挑む労務管理」をテーマに、講師に社会保険労務士の鈴木大輔氏を招き、労働市場の状況や多様な人材を活用するため注意点など講義いただきました。このほかに事例紹介とて、株式会社みらいファームやまとの代表取締役である早坂了

悦氏と株式会社タイミーのスポットワーク研究所の千葉連理氏から、農福連携の取組や、農業分野におけるスポットワークの現状について紹介いただきました。

スポットワーク活用に関して活発な質疑があり、労働力の確保に向けて、関心の高さがうかがえました。

普及センターでは、今後も各経営体の経営改善に向けた支援を引き続き行ってまいります。

○令和6年度第2回巨理地域農業普及活動検討会を開催しました

令和7年2月28日

巨理農業改良普及センター



令和7年2月4日に、当普及センターで今年度第2回目の巨理地域農業普及活動検討会を開催しました。

この検討会は、当普及センターで取り組む普及指導活動の実施状況について外部有識者等から活動手法や内容などの評価と課題解決に向けた助言をいただくため、開催しています。今回は、重点的に支援している活動の活動成果と令和7年度普及指導計画(案)について検討しました。

検討委員からは、①対象地域の関係者へ丁寧な対応により意思疎通が図られたこと、②特産品「クールボジャ」のマニュアル作成を通して生産継続への取組が実現したこと、③2年連続の夏季高温下でいちご栽培管理技術を再構築し年内収量が増えたこと、④さつまいもの収穫作業に対する改善指導等が評価されるとの御意見をいただきました。また、残された課題に対する継続支援や地域のニーズを拾う重要性等の期待の声もいただきました。

普及センターでは、委員の方々からいただいた評価や御意見等を来年度の普及活動に生かしてまいります。

②新たな担い手の確保・育成

○みやぎ農業未来塾「大河原地域次世代農業研修会」を開催しました！

令和7年2月3日

大河原農業改良普及センター



大河原農業改良普及センターでは、仙南農業士会、仙南4Hクラブと共催し、令和7年1月21日にみやぎ農業未来塾「大河原地域次世代農業研修会」を開催しました。

本研修会は、農業士、4Hクラブ員及び管内新規就農者のスキルアップと農業者間の交流促進を目的に行われ、14人の農業者が参加しました。

研修会の前半では、あべ社会保険労務士事務所の阿部裕一社会保険労務士より、従業員に対する安全衛生教育の重要性について講義をいただきました。

後半ではBASFジャパン株式会社の担当者よりザルピオフィールドマネージャーについて説明がされ、衛星画像を用いた栽培管理支援システムを用いて可変施肥を行うことなどによりコスト低減や品質向上等につなげた事例について紹介いただきました。

両講義ともに経営改善につながることから、参加者は熱心に聞き入っていました。

研修会後には交流会が行われ、各自より抱負を発表するなど、意見の交換を積極的に行い交流を深めた様子でした。普及センターでは、今後も世代を超えた農業者の交流について引き続き支援していきます。

○仙南4Hクラブで先進地視察研修を開催しました

令和7年2月3日

大河原農業改良普及センター



仙南地区農村青少年クラブ連絡協議会(仙南4Hクラブ)は、大河原農業改良普及センター管内の若手農業者で構成され、クラブ員相互の親睦並びに技術や知識の向上を目的に様々な活動を行っています。

その活動の一環として令和7年1月29日に登米市で先進地視察研修会を実施し、県の青年農業士である佐藤瑛彦氏と伊豆沼農産を訪問しました。

はじめに、佐藤瑛彦氏から大豆やばれいしょ生産、耕畜連携の取組みをご説明いただき、スマート農業機械や設備の視察を行いました。

次に、有限会社伊豆沼農産が運営する農家レストラン「くんべる」に移動し、昼食をとった後、伊藤秀雄代表取締役会長から6次化の取組や経営に対する考え方についてお話をいただきました。

研修会には会員6名が参加し、訪問先では、土づくりなどの栽培技術や、従業員の人材育成、販路拡大等経営についての質疑応答が活発に行われ、大変有意義な研修となりました。

○未来塾で地域の先進的な取組を視察しました 令和7年2月4日 大崎農業改良普及センター



大崎管内の若手農業者を対象に、令和7年1月28日みやぎ農業未来塾の視察研修を開催しました。普及センターでは、新規就農者や若手農業者を対象に専門的な技術・知識の習得や経営能力向上のため、みやぎ農業未来塾を開催しています。

今回の研修では、管内でトマトの環境制御技術に取り組む先進経営体と、農作物に被害を与え、マイナスの存在であるイノシシ等を地域資源として活用を始めた大崎市の取組を視察しました。

株式会社まやまのさとうファームでは、代表取締役の佐藤喜則氏からフルーツトマトを作るようになったきっかけやトマト栽培に対するこだわり、これからの展望などを伺いました。また、東北初のイノシシジビエ食肉加工施設となる大崎市ジビエ食肉処理加工等施設では、市の担当係長から施設整備の経過やジビエを活かした産業の創出・地域活性化への目標についてお話を伺いました。参加者からは次々と質問が出され、関心を持って研修を受ける様子が伺えました。普及センターでは、今後も次世代を担う若手農業者の取組を支援していきます。

○登米市農業士会視察研修会が開催されました 令和7年2月4日 登米農業改良普及センター



令和7年1月28日に登米市農業士会の視察研修会が行われ、同会会員7人と、その後継者2人が参加しました。

視察先として、美里町の株式会社舞台ファーム（美里グリーンベース）と大崎市岩出山の株式会社まやまのさとうファームの2か所を訪問し、最先端のレタス次世代型植物工場と第3回全国トマト選手権ラージ部門最高金賞受賞のトマト栽培についてお話を伺いました。

午前は美里町の株式会社舞台ファーム（美里グリーンベース）で、「舞台ハイブリッド土耕栽培」によるレタス次世代型の植物工場の取組について視察し、ブシャン工場長から説明をいただきました。参加者からは、「テレビでは見たことのある野菜工場だが、その規模の大きさと、ロボットでの自動化について、想像以上で驚いた。」との感想が聞かれました。

さらに、午後は株式会社まやまのさとうファームのトマトハウスを視察し、指導農業士でもある、代表取締役の佐藤喜則氏より自社の経営内容や高糖度トマトの栽培方法について詳しく説明をいただきました。暑さ対策、環境制御技術、法人化してのメリットなど、活発に質疑が行われました。

普及センターでは、農業士のスキルアップにつながる活動を今後も支援していきます。

○登米市農業士会地域農業振興懇談会が開催されました

令和7年2月13日
登米農業改良普及センター



令和7年2月5日に登米市農業士会地域農業振興懇談会を開催し、講演会に同会員3人が参加しました。さらに、講師を招いた懇親会には、登米市4Hクラブ員2人が参加し情報交換を行いました。

講演会の講師には、有限会社耕佑の伊藤代表取締役をお願いし、「地域の魅力を通じて伝える」をテーマに御講演いただきました。

伊藤代表取締役は、有限会社耕佑の経営だけでなく、合同会社くりはらファーマーズラボの代表として地域の魅力を内外に伝える活動を実践され、さらに、NPO法人BALLOONの副理事長・施設長として障害者雇用に取り組んでいます。

今回の講演では、会社の経営内容や、GLOBAL GAPの取得、外国人雇用、地域振興、農福連携など幅広い内容について、教えていただきました。

伊藤代表も農業士であることから、参加した会員と積極的な意見交換が行われ、充実した懇談会となりました。普及センターでは、農業士のスキルアップにつながる活動を今後も支援していきます。

○ふぁーみんぐ女子会を開催しました
令和 7 年2月13日
栗原農業改良普及センター



令和 7 年 2 月 12 日（水）に、栗原市市民活動支援センターで、「ふぁーみんぐ女子会～ひろげよう、交流の輪！新たな出会いと発見を～」を開催し、県北 3 農業改良普及センター（大崎・美里・栗原）管内の女性農業者等 8 人が参加しました。

はじめに、県北地域で活躍する女性農業者 3 名に、就農のきっかけや現在の営農内容、これからの夢についてお話いただきました。

次に、グループに分かれて参加者同士の交流会を行いました。女性農業者ならではの悩みを共有して話が盛り上がっている様子がみられました。

参加者からは、地区や市町村といった枠を超えた交流を行うことができ良かったとの声が聞かれました。

○「美里地区女性農業者キャリアアップ研修会」を開催しました

令和 7 年2月14日
美里農業改良普及センター



美里地域は農産物直売や農産加工、農家レストラン等のアグリビジネスに取り組む農業者が多く、経営管理や組織運営、商品開発など、女性農業者の担う役割が大きくなっています。

そこで、一般社団法人くりはらツーリズムネットワーク会員である、株式会社三圃の三浦浩子氏を講師に、農産物や自然、文化、歴史等の地域資源を活用して事業者同士が互いの価値観や活動に共感しながら交流し、よりよい関係を築き、協働する「くりはらツーリズム」の取り組みを実際の体験メニューを通じて学ぶ研修会を 2 月 4 日に美里農業改良普及センターを会場に開催しました。

はじめに、（一社）くりはらツーリズムネットワーク 菅原直人事務局長から、法人の活動内容や取り組みについてご紹介いただきました。

次に、講師の三浦氏から経営概要や、ひょうたんラ

ンプ作品の制作・指導活動等について自己紹介いただきました。続いて、ひょうたんの栽培方法や加工のための下準備方法の説明を受け、実際に「ひょうたんランプ」の作成実習を行いました。参加者はデザイン見本を参考にしながら、「点」で表すことができる図案を各々で考えてひょうたんに書き込み、2 種類のキリを使って大きさの違う穴をあけ、独創的な作品を完成させていました。

参加者からは「様々な取り組みや多種多様な体験メニューを知ることができて良かった」、「来年度は県北地域内を視察研修してはどうか」等の感想・意見が出されました。

③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

○令和 6 年度乾田直播栽培講習会を開催しました！

令和 7 年2月4日
仙台農業改良普及センター



水稲の乾田直播栽培技術に興味のある担い手を対象に乾田直播栽培講習会を令和 7 年 1 月 17 日に開催しました。

仙台農業改良普及センターでは、令和 6 年度から黒川地域で水稲乾田直播栽培に取り組む農業法人を対象に、水稲の安定生産と面積拡大に向けた支援を行うプロジェクト課題を実施しています。今回の講習会では、プロジェクト課題の対象 5 法人を含めた生産者約 80 名が参加しました。

普及センターから乾田直播栽培導入による作業の省力化等について、情報提供を行い、農研機構東北農業研究センターの屋比久研究員から、栽培管理のポイントである碎土率の確保や播種後鎮圧、除草剤散布のタイミング等、基本技術について講義いただきました。また、取組法人の事例紹介では、「移植栽培と同等の収量となった。育苗管理がなく、作業時間が短縮できるため、大面積で取り組めた。マニュアルに従った除草が重要だと思う。」という話などがありました。

プロジェクト課題の対象 5 法人は、省力化の効果が高いことを実感し、来年度から面積を拡大していきたいと意欲を示していました。参加者からは、雑草防除や近年の高温への対策等についての質問が出ており、関心が高まっている様子でした。

普及センターでは、今後も管内の水稲乾田直播栽培の技術定着と面積拡大に向けて、生産者を支援してまいります。

○大反響！？ 営農管理システムの導入に向けた勉強会を各地で開催しました
令和 7 年2月28日
農業振興課



以前、ブログでも紹介した「営農管理システム導入・活用講座」を受講した農業者の方々から、個別に勉強会を開催してほしいという相談が相次ぎ、県内3か所で、営農管理システムの導入に向けた勉強会を開催しました。

それぞれの勉強会では、1月に開催した講座の振り返りや、経営に合ったシステムの選び方、課題の解決に向けたシステム導入後の活用方法を提案しました。また、実際にシステムの画面を見てもらいながら、具体的な操作方法を実演し、実際に使うイメージを持ってもらいました。

3か所での勉強会では、それぞれ営農形態や品目、経営課題が様々で、同じ営農管理システムでも、主として使う機能が異なってきます。経営体の状況に合った機能や使い方を提案しつつ、農業者と意見交換しながらより良い活用方法を検討でき、集合研修よりもさらに理解を深めてもらえました。

県では、営農管理システムに関する指導や助言など、スマート農業の普及に向け農業者を支援しています。営農管理システムは、今後の営農活動に必須のシステムになっていくと考えていますので、是非導入をご検討ください。支援等のご要望は、各地域の農業改良普及センターや県農業革新支援センターにお気軽にご相談ください。

④園芸産地の育成・強化支援

○直売所の販売促進に向けてレイアウト変更を支援しました
令和 7 年2月3日
大河原農業改良普及センター



大河原農業改良普及センターでは令和5～6年度の二か年のプロジェクト課題として、村田町の地域特産品であるとうもろこし、そらまめの生産振興による直売所の販売額拡大について重点的に支援しています。

活動としては、生産技術の向上と合わせて、道の駅「村田」の直売所における販売促進支援があり、本年度は、宮城県園芸推進課より園芸流通ビジネス相談員の派遣を受け、直売所売り場の改善等に取り組んでいます。

1月21日には園芸流通ビジネス相談員の助言を受けながら、売り場のレイアウト変更を行いました。冷蔵庫の移動には、普及センターのプロジェクトチームも協力して作業を行いました。棚等の移動を行ったことにより売り場の見通しが良くなり、来店客が商品を確認しやすくなりました。普及センターでは今後も、直売所が抱える課題の解決に向けた取り組みを支援していきます。

○河北せり実績検討会を開催
令和 7 年2月4日
石巻農業改良普及センター



令和7年1月28日にJAいしのまきセリ部会出荷実績検討会が生産者と市場関係者、JAいしのまき、普及センター出席のもと、開催されました。(写真は1月の収穫の様子)

今作の出荷状況は、初冬までの高温傾向が12月に一転し、平均気温が例年よりも低く推移したため、年末年始の高値の時期にせりが伸びず、例年のように出荷できなかったとJAから報告がありました。品薄で単価は高く推移したものの、数量を出せず、来季に課題を残しました。

温暖化が進行する中、冬の低温にどのように対策するかを普及センターから情報提供し、課題解決の参考にしていただきました。普及センターは、今後もGI認定を受けた地域の宝である「河北せり」の生産を支援していきます。

○宮城県ぼてと生産者大会開催！管内法人が「県知事賞」を受賞！

令和 7 年2月4日

石巻農業改良普及センター



令和 7 年 1 月 30 日にカルビーポテト(株)と宮城県共催の「宮城県ぼてと生産者大会」が開催され、加工用ばれいしょ生産者や関係機関約 70 名が参加しました。

大会の中で、本年の収量優秀者を表彰する「宮城県加工用ばれいしょ優良生産者表彰式」も併せて行なわれ、東松島市の(株)めぐいとが県内最高収量を収め「県知事賞」を、また石巻市の(株)入沢ファームが 2 年連続で「優秀賞」を受賞しました。

当所では普及プロジェクト課題に位置付け、各種検討会や「ぼてと通信」の発行などで加工用ばれいしょに取り組む管内生産者への支援を行っており、この二法人の受賞は大変嬉しいものとなりました。引き続き、各種検討会の開催や排水・病害虫防除対策等の情報を提供し、加工用ばれいしょ生産の取組を支援していきます。

○JAみやぎ登米りんご生産部会せん定講習会・防除暦説明会が開催されました

令和 7 年2月6日

登米農業改良普及センター



令和 7 年 1 月 20 日に、JAみやぎ登米りんご生産部会の「せん定講習会・防除暦説明会」が開催され、部会員 17 人が参加しました。

午前の部は、中田町のりんご園地にて「せん定講習会」が行われ、農業・園芸総合研究所の職員が講師となって、わい性台木の若木「ふじ」のせん定方法について実技講習を行いました。主幹頂部の切り下げ後のせん定方法や、下垂した側枝の切り上げ方法について参加者同士で議論するなど、充実した講習会となりました。

午後の部は「病害虫防除暦説明会」が行われ、普及

センターから気象経過や病害虫の発生状況など令和 6 年産の振り返りと、令和 7 年産防除暦について説明しました。昨年は夏季の高温の影響で着色不良などが多くみられたため、次年産は高品質な果実生産ができるよう参加者は熱心に耳を傾けていました。

当普及センターでは、JAみやぎ登米りんご生産部会の高品質・安定生産に向けて継続して支援していきます。

○JA新みやぎ仙台小ねぎ部会土壌診断研修会が開催されました

令和 7 年2月6日

美里農業改良普及センター



JA新みやぎみどりの管内の涌谷町は東北最大級の小ねぎ産地であり、生産された小ねぎは「仙台小ねぎ」として全国に流通しています。

JA新みやぎ仙台小ねぎ部会の定例の土壌診断研修会が 2 月 4 日（火）に開催されました。

普及センター職員が講師となり、土壌診断の結果に基づき、小ねぎ部会全体の傾向や課題を説明するとともに、小ねぎ部会土壌対策班で行った太陽熱土壌消毒と緑肥の試験の取組を紹介しました。また、各部会員の土壌診断結果についても個別に解説を行い、今後の施肥方法などの改善策を検討しました。

全体で、肥料成分の蓄積が見られることから、窒素単肥など土壌診断に基づいた施肥の取組を今後も継続していくように呼びかけました。

生産者からは、堆肥等の有機物施用や緑肥の効果について活発に質問が出され、土づくりへの意識の高さがうかがえました。

普及センターでは、引き続き持続性の高い小ねぎ生産に向けて土づくり等の支援を行っていきます。

○ねぎ若手生産者の情報交換会を開催しました

令和 7 年2月7日

仙台農業改良普及センター



令和7年1月23日、黒川地区の若手ねぎ生産者の交流促進と技術研鑽を目的とした第3回情報交換会を開催し、JA新みやぎあさひなねぎ部会の若手生産者5人が参加しました。

情報交換会では、各生産者から今作の反省点や来作へ向けての改善点などについて発表があり、情報共有や意見交換が行われました。発表では、「来作は面積拡大にあたり作型を増やしていきたい」「長期的な出荷に向け生産計画を詰めていきたい」などの意気込みが述べられました。

普及センターからは、今作の生育経過および発生病害虫についての説明、先進地視察の報告などを行いました。

今年度3回目の開催となり、初回と比較すると生産者同士も打ち解け、会話も弾むようになってきています。

普及センターでは、引き続き、若手生産者の技術向上とネットワークづくりを重点的に支援し、地域農業の担い手育成に取り組んでまいります。

○道の駅「村田」で研修会が開催されました 令和7年2月7日 大河原農業改良普及センター



大河原農業改良普及センターでは、村田町特産の「そらまめ」と「とうもろこし」の品質・収量の向上と出荷農産物の販売促進について支援しております。

そのため、令和7年2月3日（月）に、道の駅「村田」で出荷団体「村田ファームズ」の総会に合わせて研修会を開催しました。

研修会では、県の園芸流通ビジネス相談員から出荷物の品質向上と売場の衛生管理面での改善を提案し、その後、普及センター職員から農薬の適正使用について巡回指導時の事例を交えながら説明を行いました。研修会に参加した生産者は、相談員の提案に熱心に耳を傾け、普及員の説明に大きくうなづくなど、『「また来たい！」と思える直売所』づくりへの意欲が感じられました。

○栗原地域園芸振興セミナーを開催しました！ 令和7年2月10日 栗原農業改良普及センター



高収益作物の生産拡大を目指し、栗原市と新みやぎ農業協同組合と共催で園芸振興セミナーを開催しました。当日は関係者含め63名にご参加いただきました。

今回のセミナーは、高収益作物を一から学ぶことをテーマに実施しました。園芸品目で振興を図っている「たまねぎ」と「さつまいも」については、全国農業協同組合宮城県本部園芸・生産振興部の鈴木様にご講演いただき、栽培方法や年間の作業のほか出荷販売形態まで詳しく説明いただきました。また、県北の中山間地域で生産が行われている「畑わさび」について、加美町で先駆者として生産を行うジェルマン合同会社の菊地氏にご講演いただき、栽培のスケジュールや出荷形態などを分かりやすくご説明いただきました。

普及センターでは、管内で取り組まれている「たまねぎ」や「さつまいも」のほか、栽培がスタートした「畑わさび」の事例を講演の中で紹介しました。

参加者からは、今後園芸品目を導入していく上で大変参考になった、畑わさびの話は初めてであり非常に興味を持たたなどの意見をいただきました。

栗原農業改良普及センターでは、今後も園芸作物の生産拡大に向けて支援していきます。

○施肥設計を見直そう！南郷施設きゅうり部会栽培講習会が開催されました 令和7年2月10日 美里農業改良普及センター



令和7年2月7日、JA新みやぎみどりの地区南郷施設きゅうり部会栽培講習会が開催され、部会員5人が、土壌分析に基づいた適正施肥について学びました。

講習会では、普及センターから土壌分析結果と過去の分析データの比較による肥料成分の推移等について報告し、生産者それぞれの土壌の現状や課題を確認しました。また、減肥の取組や有機物主体の施肥設計等について情報提供しました。

肥料成分の過剰や塩基バランスの崩れが原因と思われる生育不良（葉の障害等）の課題があるものの、着実に改善が見られており、部会員の土壌改良に関する意識が高まってきています。「施肥を見直してから、葉の障害が改善されてきた。」という声もありました。

肥料価格の高騰による農業経営への影響や持続可能な環境にやさしい農業への対応が求められており、コスト削減や環境負荷を考慮した施肥が重要です。今後も土壌診断に基づいた施肥設計を行い、単肥や堆肥などを活用した土壌改良に取り組んでいくこととなりました。

普及センターでは、土壌分析に基づく適正施肥管理の取組を支援し、園芸品目の安定生産、環境にやさしい農業生産を推進していきます。

○JA新みやぎあさひな地区のえだまめ作付け検討会が開催されました

令和7年2月17日

仙台農業改良普及センター



JA新みやぎあさひな地区えだまめ作付け検討会が令和7年2月6日に開催されました。

あさひな地区のえだまめ生産は、大郷町内の6法人で行われており、年々作付面積が拡大しています。令和7年産の栽培面積は前年より0.2ha増加し9.5haを予定しています。

栽培する6法人は、収穫時期を分散させることで、JA新みやぎが保有する収穫機の使用や収穫後の洗浄・脱水の作業が重ならないよう、春作業の始まる前のこの時期に、品種及び播種時期、播種面積について話し合いを行っています。

令和6年産は一時期収穫が重なる時もありましたが、順調に法人間のリレー出荷が行われ、令和7年産に向けても、法人間の情報交換を行いながら高品質生産への取組を一層強化したいとの意見が出されました。

普及センターでは、水田を活用した露地野菜等の導入による経営の安定化に向けた取組を支援してまいります。

○「食品衛生法に関する研修会」を開催しました!

令和7年2月17日

大河原農業改良普及センター



令和7年1月14日に「食品衛生法に関する研修会」を開催しました。この研修会は、普及センターが取り組んでいるプロジェクト課題「果樹産地の維持・発展に向けた若手果樹生産者を中心としたネットワーク構築」の活動として開催したものです。

仙南保健所の職員を講師に迎え、食品加工に関する許可・届出や、HACCPに基づく衛生管理について学びました。実際の相談事例を交えた講義が行われ、食品加工に取り組みたいと考えている若手果樹生産者は熱心にメモを取りながら学んでいました。研修会後には、参加者から「食品衛生法に基づく必要な設備について学べて良かった。自分の加工場を建てる際の参考にしたい。」といった声も聞かれました。また、この研修会は、同世代の若手果樹生産者同士が新たに交流する貴重な機会となりました。

普及センターでは、果樹産地の維持・発展に向けて、引き続き若手果樹生産者への支援を行ってまいります。

○「りんごせん定講習会」が開催されました!

令和7年2月25日

大河原農業改良普及センター



令和7年1月28日、柴田農林高等学校主催の「りんご剪定講習会」が開催されました。今回の講習会は県内農林高等学校の担当職員を対象に行われたもので、柴田農林高等学校だけでなく、近隣の農林高等学校の職員も参加しました。

講習会は座学・実技の2部構成で進行し、第1部では普及センター職員が講師となせん定の基礎知識の講義を行いました。参加者は終始熱心にメモを取りながら、枝の更新時期や枝の選び方について積極的に質問していました。第2部では、おい性台木のりんごを使って実技指導を行いました。受光態勢の改善

や薬剤のかかりやすさ、作業性の向上をポイントに枝の間引きや小枝の整理方法について指導を行いました。参加者からは「生徒に教える上で作業の理論的根拠を学ぶことができて良かった」という感想が寄せられました。

○若手生産者を対象にした「りんごせん定講習会」を開催しました！

令和 7 年 2 月 25 日

大河原農業改良普及センター



令和 7 年 2 月 5 日に「りんごせん定研修会」を白石市内のりんご生産者で開催しました。この研修会は、当普及センターが取り組んでいるプロジェクト課題「果樹産地の維持・発展に向けた若手果樹生産者を中心としたネットワーク構築」の活動として講師に、JR フルーツパーク仙台あらはまの菊地秀喜氏を迎え実施しました。

若手果樹生産者を対象としているため、講師からは実演を通したせん定の講義だけでなく、枝の配置やせん定の基礎知識に関する講義も行われました。参加者はメモを取る等熱心に栽培技術・知識を深めていました。また、参加者同士で活発に意見交換しながらせん定する場面も見られました。

普及センターでは、果樹産地の維持・発展に向け、引き続き若手果樹生産者への支援を続けてまいります。

○JAみやぎ登米にら部会の総合実績検討会が開催されました

令和 7 年 2 月 27 日

登米農業改良普及センター



令和 7 年 2 月 19 日に、JAみやぎ登米にら部会主催の総合実績検討会が開催され、部会員 25 名が参加しました。

総合検討会では、令和 6 年度の気象やそれに伴う

生育状況、高温による影響で発生した病害虫などについて普及センターから情報提供を行い、来年度に向けた技術対策について説明しました。また、青果会社から、令和 6 年度の販売経過や販売実績について説明がありました。

異常気象による栽培への影響や、高齢化等による生産者減少がある中、栽培技術を高め「もっりにら」の産地として頑張っていこうという生産者の意欲が見られました。

普及センターでは、にら産地の維持・発展に向けて、引き続き生産者への支援を行ってまいります。

○令和 6 年度宮城県農林産物品評会(野菜(いちご)部門)で見事入賞！

令和 7 年 2 月 27 日

石巻農業改良普及センター



令和 7 年 2 月 17 日～18 日に JA ビル宮城で令和 6 年度宮城県農林産物品評会(野菜(いちご)部門)が開催されました。本品評会は、宮城県産いちごの「100 億円産地の育成」に向けて、宮城のいちご産地を盛り上げ、生産者の意欲向上を目的として開催されるものです。

県全体では 5 品種 35 点の出品があり、石巻管内からは、4 品種 7 点の出品がありました。外観の品質や食味の品質について厳正なる審査が行われた結果、当管内から出品した齋藤大樹さんの「とちおとめ」が見事「知事賞二等」を受賞いたしました。おめでとうございます！

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○大豆栽培における難防除雑草防除研修会(外来雑草対策)が開催されました

令和 7 年 2 月 4 日

大崎農業改良普及センター



令和7年2月3日に「大豆栽培における難防除雑草防除研修会（外来雑草対策）」がJ A古川、J A加美よつば、J A新みやぎ、農研機構、大崎農業改良普及センターとの共催で開催されました。

大崎地域は本州最大の大豆産地ですが、10年程前から徐々に帰化アサガオ類の発生が目立ち始め、現在では、ほ場内に蔓延して大豆にからみ付き、コンバインでの収穫時に苦慮するようなほ場もあり、大きな問題となっています。隣接地域も同様の難防除雑草の拡大に悩まされています。

今回の研修会では、農研機構西日本研究センターより、現在最も精力的に農地の雑草対策の研究に取り組まれている、浅見秀則研究員を講師に迎え、大豆作における難防除雑草の防除について丁寧に解説いただきました。

また、令和6年にJ A古川管内で行われた、耕起前ラウンドアップマックスロード処理と大豆播種前のトレファノサイド乳剤土壌混和処理による新たな防除体系の大規模実証試験の結果について日産化学（株）と大崎農業改良普及センターから紹介し、生産者の手ごたえについてもご本人から説明いただきました。

大豆生産者を中心に230名の参加があり、皆熱心に講演に耳を傾けている様子で、非常に高い関心が寄せられている問題であることが伺えました。

次年度も、新たな除草体系の実証展示をJ A間で連携しながら進めていく予定であり、普及センターもこの取り組みを支援していきます。

○夏黄金栽培講習会が開催されました

令和7年2月12日

登米農業改良普及センター



令和7年1月30日に夏黄金栽培講習が開催され、管内で夏黄金の栽培に取り組む4法人が参加しました。令和7年産の管内夏黄金の栽培面積は約39haとなっており、栽培面積が拡大している状況です。

夏黄金はパン用の小麦品種で、高いタンパク含有率が求められており、管内では適切なタンパク含有率にすることが課題となっています。普及センターからは品質向上に向け穂揃期追肥を必ず行うなどの栽培ポイントについて説明を行いました。J A全農宮城県本部からは麦類の販売状況や実需が求める品種、品質について情報提供が行われました。生産者にとって実需ニーズを知る良い機会となり、高品質な麦生産に向けて生産意欲が高まりました。

普及センターでは、今後も登米管内の夏黄金の収量と品質の向上を目指した取組について支援を行ってまいります。

○いしのまき和牛改良推進組合による計画交配

産子調査研究会が開催されました

令和7年2月12日

石巻農業改良普及センター



2月6日、J Aいしのまき肉牛出荷場で、石巻市と東松島市の生産者でつくる「いしのまき和牛改良推進組合」は、第13回全国和牛能力共進会（全共）（2027年、北海道）における石巻地域の計画交配に指定された種雄牛「勝美桜1」産子の調査研究会を開催しました。

「勝美桜1」は、脂肪質の遺伝的能力が高いのが特徴と言われ、組合員たちは、実際の産子の体型を見たり触ったりしながら、全共に向けて改良の参考にしていました。この日調査したのは、管内で飼養している勝美桜1産子の雌牛2頭で、いずれも体伸・体深に優れる体上線の強い輪郭鮮明な牛でした。

いしのまき和牛改良推進組合では、この日に確認した「勝美桜1」産子の体型を踏まえて、母方の牛の特徴を見ながら、全共に向けた計画交配と出品対策を進めていきます。

2. 持続可能な農業・農村の構築

①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○「やくらい土産センター・山の幸センター活性化研修会」（売り場環境改善編）を開催しました

令和7年2月12日

大崎農業改良普及センター



加美町の薬菜山にある「やくらい土産センター・山の幸センター」は農事組合法人さんちゃん会が運営する農産物直売所で、平成6年のスタート以来、中山間地である当地域の活性化に寄与してきました。しかし、ここ数年、売り上げが減少傾向にあるため、普及センターと加美町では、経営改善に向けた様々な支援を行っています。

その一環として、POP 広告クリエイターとして活動されている経営コンサルティング波多野事務所の波多野ゆか氏を講師にお迎えし、令和 7 年 1 月 30 日と 2 月 5 日に「やくらい土産センター・山の幸センター活性化研修会」(売り場環境改善編)を開催しました。

1 月 30 日の研修会では、参加者が売場の状況を確認し、改善が必要なところ、更新が必要な掲示物などのリストアップを行いました。2 月 5 日の研修会では、前回の確認結果をもとに必要な POP を作製、参加者それぞれが工夫を凝らした POP が出来上がりました。

POP は商品説明を行う販売スタッフの役割も担っていると言われていています。今後、今回の研修会の成果をもとに、美しく、お客様の心に語りかけるような POP が売り場を彩ることでしょう。

○第2回気仙沼農業改良普及センター普及活動検討会を開催しました 令和 7 年 2 月 14 日 気仙沼農業改良普及センター



令和 7 年 2 月 4 日、気仙沼合同庁舎を会場に、令和 6 年度第 2 回普及活動検討会を開催しました。この検討会は、気仙沼農業改良普及センターが取り組む普及指導活動について、外部有識者など検討委員による客観的な評価を行い、より効率的・効果的な普及指導活動に役立てることを目的としており、年 2 回開催しています。

2 度目となる今回は、令和 6 年度の全 3 つのプロジェクト課題について 1 年間の活動内容や成果を報告するとともに、令和 7 年度普及活動計画案について説明し、検討委員からは様々な角度から貴重な助言や意見をいただきました。

普及センターでは、検討委員からいただいた意見等を踏まえ、今後も効率的・効果的な普及活動に取り組んでいきます。

○栗原市金成有壁地区で酒蔵見学・新酒きき酒会が開催されました 令和 7 年 2 月 20 日 栗原農業改良普及センター



令和 7 年 2 月 15 日(土)に栗原市金成有壁地区で萩野酒造(株)主催の酒蔵見学・新酒きき酒会が開催されました。

はじめに、酒蔵見学では、酒米の洗米から蒸米、製麹、仕込みなど、酒造りの各工程を見学しながら説明を受けました。

次に、農業環境保全団体「ナマズのがっこう」の三塚事務局長から有壁のお宝について紹介していただき、宮城大学の茅原教授からは有壁の魅力を活かした地域づくりについて御講義いただきました。

最後に、萩野酒造(株)を代表する銘柄である「萩の鶴」や「日輪田」などのきき酒を行いました。参加者はきき酒を楽しみながら、日本酒のお話に耳を傾けていました。

参加者を対象にアンケート調査を実施したところ、満足・おおむね満足が 95%であり、満足度が非常に高いイベントであったことがわかりました。普及センターでは、今回いただいた意見を生かし、今後も有壁地区の地域活性化に向けた支援を行っていきます。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亘理>
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



***各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.217

発行日:2025年3月21日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp